



To be, or not to be

すずき ようこ
鈴木 庸子

●イタリア語通訳・翻訳家、在イタリア・ナポリ

今年最初のマンション管理費支払日。渡した金額を確認していた管理人氏の指が止まった。

「この10ユーロ札、何か嫌だなあ。別なのない？」

「え？」

「指に挟んで動かしたときに、紙に腰がない感じがするんだよねえ。水かぶったとか、単にものすごく使い古しなだけかもしれないけど」

守衛室の窓越しに、10ユーロ札が1枚、すまなそうに戻ってきた。

「... そう言われると柔らかい気もするけど、このくらいのもって、たまにあるじゃん」

「いや、俺も本物っぽいと思う。ホログラムも見えるし。でもさあ、このへなへなした手触り、どうも気になるんだ。どこでもらった？」

「さっきそこのスーパーで。管理人さん、毎回、お釣り探すのが大変そうだから、わざわざ朝一で崩してきてあげたのよ」

「あそこでこの時間に出したんなら、大丈夫そうだな... でも、やっぱり他のがいいなあ。お釣りも出してあげるからさ」

他の札と取り替えてあげてから、管理人氏に嫌われた出戻りを改めて眺めてみた。ホログラムや隆起、透かしは確認できるし、両面とも色やデザインに違和感はない。指先には確かに柔らかい。というより、ぼろい。ただ、汚れた手でジーンズのポケットに小銭と一緒に押し込んで、そのまま洗濯機にかけたりすれば、このくらいにはなりそ

うだ。これは大丈夫（＝本物）だろうとは思いつつも、もしやついにつかまされたのでは、という疑念は否めなかった。2014年9月末に流通しはじめた、欧州中央銀行印刷局のお墨付きの新10ユーロ札の偽物が、この12月にはじめて押収されたところだったからである。そして、ヨーロッパ全土に出回る偽造ユーロ紙幣・硬貨市場の90%を席卷しているのが、ナポリ北部郊外に点在するその名も「ナポリグループ」だからである。市販の紙幣鑑別機のなかにはこれに騙されるものすらあるほどで、彼らの製品の高いクオリティは、イタリアの警察や関係省庁はもちろん、欧州中央銀行も忸怩たる思いで認めるところだ。50万ユーロ（約6,500万円）を超える先述の押収（ミラノ人が運転していた車のトランク内）が行われたのも、出荷待ちだった10、20、50、100各ユーロ偽札計5,300万ユーロ（約68億円）相当が1年ほど前に住宅内の物置で見つかったのも、この地区だったことはいままでのない。我が家からそこまでは、車でたかだか30～40分の距離なのである¹。

このナポリグループ、業界に君臨していることは周知の事実だが、一方でユーロが生まれてこの方存在したことがない300ユーロ札なるものを製作、ドイツで使った（！）という伝説的な“偉業”の持ち主でもある。受け取った人もどうかとは思いますが、世界の主要通貨の1つで、かつ流通中である紙幣のコピーではなく“オリジナル”の贋作を流通させるという発想には、事の良し悪しは



さておき、突出した創造力と矜持を認めざるを得ない。

偽札にビジネス以外の魅力を見出すメンバーも備えた彼らは、独立したプロフェッショナルの集合体といわれている。そのお膝元には、将来の偽造マエストロ養成コースが存在し、特別なコネを持った希望者は、世界各地からの留学または出張講義のシステムを利用できるというのも、単なる都市伝説ではなさそうだ。

昨年パリで起こったようなテロ事件は、ナポリ周辺ではありえないと力説する友人がいる。それは、パスポートや滞在許可証、免許証といった身分証明書各種の偽造にも、すでにかんなく精巧な腕を発揮している、他でもないナポリグループのお蔭だと。

「テロリストグループにしたら、ここはデリケ

ートな必需品を、品質とプライバシーの保証付きで提供してくれる優秀な納入業者が集中した、かけがえのない地域だよ？ここで何かあったら、真っ先に困るのは彼ら自身なんだから。墓穴を掘るような真似はしないさ」

日本の大企業が社員のヨーロッパ出張禁止令を出したり、私の娘が通う小学校の遠足（わずか15 km足らずの距離）の際、テロの可能性を理由に子供に参加を許さない父母がでるご時世である。ヨーロッパの都市部に住む誰もが今必要としている、テロリズムに対するもっともらしい気休めといわれてしまえば、それまでだ。しかし、蛇の道は蛇。何事も一筋縄ではいかない昨今。彼の説に一理を見出すことは許されよう。

恐らく本物、の10ユーロ札。行きつけの店で、紙幣鑑別機にかけてもらった。本物と出た。

註

1. ただし、2014年にイタリア国内で実際に偽札が量・額とも最も多く流通したのは、ナポリを州都とする南部のカンパーニア州ではなく、北部のロンバルディア州（州都ミラノ）で、次点は中部のラツィオ州（同ローマ）、これに額ではヴェネト州（同ヴェネツィア）、量ではピエモンテ州（同トリノ）と北部が続く²。つまり偽造紙幣生産地からの距離的な近さは、その消費地としての必須条件とはならない。2015年の偽造ユーロ最多流通国がフランスであるという、国防省警察偽造通貨防止担当官による報告³も、これを裏付けよう。
2. Ministero dell' economia e delle finanze, *Rapporto statistico sulla falsificazione dell' euro 2014*
http://www.dt.tesoro.it/export/sites/sitodt/modules/documenti_it/antifrode_mezzi_pagamento/antifrode_mezzi_pagamento/Rapporto_statistico_2014_Ventisettesima_Edizione.pdf
3. Il sole 24 ore, *In Italia si produce il 90% degli euro falsi nel mondo*
http://www.ilsole24ore.com/art/impresa-e-territori/2015-12-30/in-italia-si-produce-90percento-euro-falsi-mondo-175008.shtml?uid=ACu6Q41B&refresh_ce=1